

平成 28 年 2 月 10 日

各 位

会社名 シダックス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 志 太 勤 一
(JASDAQ コード番号 4 8 3 7)
問合せ先 常務取締役 管理本部長 兼 IR 担当
若 狭 正 幸
(TEL. 0 3 - 5 7 8 4 - 8 9 0 9)

特別利益、特別損失の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間において、特別利益及び特別損失を計上するとともに、平成 27 年 5 月 15 日に公表いたしました通期連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別利益の計上について

(1) 投資有価証券売却益の計上

当社グループが所有しておりました投資有価証券の一部売却に伴い、575 百万円の投資有価証券売却益を特別利益として計上いたしました。

2. 特別損失の計上について

(1) 減損損失の計上

連結子会社が所有するレストランカラオケ事業の用に供する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、277 百万円の減損損失を特別損失に計上いたしました。

(2) 訴訟損失引当金繰入額の計上

当社の連結子会社である大新東株式会社は、平成 24 年 3 月に国土交通省より平成 21 年の国土交通省北海道開発局及び各地方整備局発注の車両管理業務に係る入札談合に対して、他社との連帯債務による損害賠償請求を受け、現在係争中ではありますが、訴訟の進行に伴い、今後発生する可能性の高い損失を合理的に見積もり、220 百万円の訴訟損失引当金繰入額を特別損失に計上いたしました。

3. 通期連結累計期間連結業績予想値の修正

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想(A)	167,000	2,500	1,780	600	15.39
今回修正予想(B)	158,100	△700	△1,200	△1,500	△38.48
増減額(B-A)	△8,900	△3,200	△2,980	△2,100	
増減率(%)	△5.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	174,461	647	202	255	6.56

4. 修正の理由

売上高につきましては、トータルアウトソーシング事業における社会サービス業務において、政府が掲げる「地方創生」施策のもと、地方自治体における財政再建と地域活性化へのニーズの高まりから、地方公共団体等からの新規受託が増加するとともに、車両・旅客サービス業務においても、インバウンド向け旅客運行業務の新規受託により大幅に拡大した一方、主にレストランカラオケ事業におきましては、長引く景況感の悪化に伴い個人消費が本格回復に至らない中、同業他社との低価格競争や娯楽の多様化による他業種との顧客獲得競争の激化による影響に加え、年末忘年会シーズンにおける企業・個人の宴会需要の減少などが影響し、当初計画を大きく下回る見込みとなりました。また、コントラクトフードサービス事業並びにメディカルフードサービス事業におきましては、不採算店舗の早期撤退を優先させたことにより、収益性は向上いたしました。売上高は当初計画を下回る見込みとなりました。

利益面につきましては、当社グループのスケールメリットを活用し、原材料・物流コスト高騰の抑制に努めるとともに、労務費の原価管理の徹底、店舗運営経費の見直し並びに間接部門を中心とした販管費の適正化に努めた結果、コントラクトフードサービス事業、メディカルフードサービス事業並びにトータルアウトソーシング事業においては堅調に推移しましたが、主にレストランカラオケ事業の売上高減少による利益減少を補うまでには至らず、各段階利益とも当初計画を大きく下回る見込みとなりました。

なお、翌事業年度以降につきましては、レストランカラオケ事業の事業改善のために、不採算店舗についてはスクラップ&ビルドを積極的に推進するとともに、他業態との効率的なアライアンスの構築並びに訪日外国人観光客を対象とした食とエンターテインメントを提供するインバウンド対応型店舗の拡大等、事業の選択と集中により収益構造の改善を早急に実現してまいります。

※ 上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

以上